

音楽学部

音楽文化創造学科教授 金子 敦子

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
学会発表			
日本音楽学会中部支部第100回例会 シンポジウム「楽器の伝播とグローカリゼーション—大正琴の場合—」 (司会兼パネリスト)	2010. 12. 11	名古屋芸術大学音楽学部 1 - 701 教室	科研（基礎研究 C 平成 20～22 年度）による共同研究の成果の一部公開のためのシンポジウム。(1)全体の趣旨説明（田中多佳子）、(2)日本の事例（金子敦子）、(3)台湾の事例（尾高暁子）、(4)インドの事例（梅田英春）、(5)インドの事例（田中多佳子）のそれぞれの発表後、質疑応答および総括を行った。 金子は、日本における大正琴の歴史について発表した。
報告（WEB 動画資料）			
「大正琴の製造過程と技」（監修）	2011. 1	Web サイト： (http://www.kyokyo-u.ac.jp/ongaku/tanaka/kaken/Taishogoto.html)	「楽器におけるわざ学の伝承とグローバリゼーション」（科研—基礎研究 C 平成 20～22 年度）の研究。 世界にはさまざまなが存在するが、それらの楽器の製作には、製作者の「もの作りの技（わざ）」が必要とされる。本研究の課題は、楽器製作の技に焦点をあてた楽器研究、もの作りの視点からみた楽器研究である。金子（研究分担者、連帯研究者）は、大正琴の製造過程を映像記録に残すことにより、大正琴製造にいかなる「技」が必要なのかを明らかにしている。
社会活動			
社団法人大正琴協会主催 第 2 回 子ども大正琴コンクール（審査員）	2010. 9. 23	名古屋：中電ホール	全国の子どもの大正琴愛好者を対象としたコンクールの審査員。全国より 37 グループ、278 人が出場し、大正琴の演奏を競った。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項	
授業科目 音楽教育Ⅲ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要		教材・資料等の概要
新聞紙上に掲載された音楽的記事を取り上げ、その記事内容について議論を行った。その結果は報告書『新聞に見られる音楽記事』としてまとめ、全受講生に配布した。		

授業科目 西洋音楽史	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
学生の理解度を確認するため、小テストを実施した。	
授業科目 民族音楽研究・日本音楽研究	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
音や映像資料の有効活用につとめた。また楽器についてはなるべく実物に触れられるように工夫した。	

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
日本音楽学会	2010. 11. 5～7	第 61 回日本音楽学会全国大会（中部支部担当） 実行委員